CONTENTS

Page
バレーボール部 1
野球部監督インタビュー 2
硬式テニス部 3
少林寺拳法部 4
体育会会長 あいさつ 4
敬愛大学体育会活動報告会 4
活動報告一覧 4

敬大SPORTS（スポーツ） Vol.21

● 敬愛大学体育会発行 ● 〒263-8588 千葉市稲毛区穴川1-5-21 TEL.043（251）6363 ● March 23.2023

VOLLEYBALL 女子バレーボール部

関東女子2部リーグで春季は準優勝
秋季はチーム初となる優勝を達成！

2022年春季リーグで準優勝、続く秋季リーグで初優勝を達成し、ノリに乗っている女子バレー部。今季にかける思いを井出主将が語った。

ボロ負けした後にチームで決めた挑戦者らしくイケイケで戦おう

昨年も主将を務め、2023年も引き続き主将を任された井出選手。まずは快挙ともいえる2022年を振り返ってもらった。

「確かに春は準優勝しましたが、この試合に勝てば優勝という大事な一戦で早稲田大学に3-0で負けしてしまいました。そのときの不安定な気持ちのままで入れ替え戦を戦って、結局日本大学に3-0でまたもやボロ負け。準優勝して嬉しいというよりも、みんな悔しい気持ちが強かったんです。でも、それがあったからこそチームは団結できました。もともとバレー部は仲がよくて、先輩も後輩も関係なく意見が出し合える雰囲気です。みんなで腹を割って話し合って、メンタルの立て直しができなくて負けてしまったのだから、次は何があってもイケイケで行こうと決めました。それが功を奏して、秋季は春季よりももっと団結できました」

秋季リーグでは、全10試合で9勝1敗という過去最高の成績で、2部リーグ初優勝を成し遂げることができた。そして3度目となる1部リーグ入れ替え戦に挑戦。

「対戦相手は1部リーグの日本大学でした。こちらは挑戦者なのだから強気で行こうと試合に臨みました。ところが、日本大学は1部チームなのだというオーラを醸し出してきて、私たちはついて委縮してしまったのが反省点です。3-0で負けて1部昇格は果たせませんでした」

課題に直面したバレー部は、秋季リーグが終わるとすぐに1部リーグのチームとの戦いを視野に入れた練習に取り組みはじめた。

「1部リーグのチームとの試合では、2部の試合より明らかにボールのスピードが速いんです。そのスピードに追いつけるブロックや足さばきができるようにトレーニングをしています」

縁の下の力持ちで流れを引き寄せ春・秋連続で個人賞を受賞

井出主将は春季リーグで敢闘選手賞、秋季リーグで優秀選手賞を受賞している。決定本数などの数値で決まるブロック賞やセッター賞とは異なり、敢闘選手賞や優秀選手賞は総合的な評価が基準となる。

「バレーボールでは、試合の流れが明らかに相手チームに行ってしまうことがあります。その流れをこちらに取り戻すのは難しいのですが、そんなときこそドンと構えて大丈夫という空気感を出して、流れをこちらに取り戻してチームを回転させていくのが私の役割。縁の下の力持ちとしてチームに貢献できたことが賞につながったのではないかと思います」

敬愛大学が視野を広げてくれた夢に向かって前進あるのみ

井出主将は4月から4年生になり敬大女子バレー部ラストイヤーを迎える。卒業後はバレーとは距離を置き、別の道へ進むことを決めている。

「小さな時から私の夢は飛行機の操縦士です。敬愛大学を卒業したら操縦士養成学校へ入学するつもりで学業にも励んでいます。そのことを敬愛大学で授業を持っていただいている先生に相談したら、アメリカに航空留学する方法もあるのでそれも選択肢の一つとしておくといいと教えてくださいました。敬愛大学は生徒の夢を真剣に応援してくれる先生が揃っているので、その点も入学してよかったと思うところです。幸い国際学部には英語の授業がたくさんあり、周りに留学生も多く、留学生と会話をすることで英会話のトレーニングもしてきので、英語力はなんとかなりそうです。敬愛大学で学ぶことで、いろいろな人とつながることができましたし、国によって文化が違ったり、考え方が全然違ったりすることも肌で感じることができました。これからも視野を広げて、いろんな視点で物事を見られるようになっていきたいですね」と語る井出選手。夢に向かって突き進むその姿勢は、チームメイトや同級生をはじめ、たくさんの人に夢や勇気を与えている。

バレーボール部 主将
国際学部 国際学科 3年
井出 はるか

https://www.u-keiai.ac.jp/sports/

敬愛大学体育会HP新設しました。

2022年度　敬愛大学体育会所属クラブ活動報告（大会結果等）一覧

2022年12月16日現在

女子バレーボール部

▶2022年度春季関東大学女子2部リーグ戦
（4月～5月 神奈川大学 湘南ひらつかキャンパス）
6勝1敗　準優勝
【敢闘選手賞】井手 はるか（3年）
【スパイク賞】【ブロック賞】チュク ビヨンセ サトミ（3年）

▶2022年度春季関東大学女子リーグ戦1部2部入替戦
（6月12日 日本体育大学世田谷キャンパス）
●敬愛大 0-3 日本大○　（16-25,14-25,17-25）

▶第41回東日本バレーボール大学選手権大会
（6月22日･23日 墨田区総合体育館）
2回戦 ○敬愛大 3-0 札幌大●　（25-9,25-11,25-13）
3回戦 ●敬愛大 0-3 筑波大○　（22-25,23-25,18-25）

▶2022年度秋季関東大学女子2部リーグ戦
（9月～10月 大東文化大学東松山キャンパス）
9勝1敗　優勝
【優秀選手賞】井手 はるか（3年）
【ブロック賞】チュク ビヨンセ サトミ（3年）
【セッター賞】櫻井 聖綾（2年）

▶2022年度秋季関東大学女子リーグ戦1部2部入替戦
（6月12日 日本大学八幡山キャンパス）
●敬愛大学 0-3 日本大学○　（22-25,19-25,23-25）

▶第69回 秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会
（11月29日 町田市総合体育館）
●敬愛大学 1-3 新潟医療福祉大学○　（25-15,20-25,22-25,17-25）

少林寺拳法部

▶第59回 少林寺拳法関東学生大会（5月4日 日本武道館）
有段単独の部　鳥飼、近藤 出場

▶2022年少林寺拳法千葉県大会（6月19日 船橋アリーナ）
一般単独の部　鳥飼 出場

▶第18回 少林寺拳法関東新人大会（9月11日 慶應義塾大学日吉キャンパス）
単独演武　近藤 出場

▶第56回 少林寺拳法全日本学生大会（5月4日 日本武道館）
単独演武有段の部　近藤 出場

野球部

▶2022年度千葉県大学野球春季リーグ戦〈1部〉
（4月～5月 長生の森公園野球場他）
2勝7敗1分 7ポイント 6位

▶2022年度千葉県大学野球春季1部2部入替戦
2勝0敗 1部残留

▶2022年度千葉県大学野球秋季リーグ戦〈1部〉
（8月～10月 長生の森公園野球場他）
5勝7敗2分 勝点2　5位

硬式テニス部

▶2022年度千葉県学生テニス対抗戦〈団体戦〉（5月～7月 各大学テニスコート）
【男子2部リーグ】3部リーグ制（1リーグあたり4大学構成）
1回戦 対 流通経済大学 3-4 敗
2回戦 対 千葉工業大学 8-1 勝
3回戦 対 明 海 大 学 4-3 勝
2部リーグ 準優勝 1部入替戦権利取得
入替戦 対 千葉大学 1-6 敗 2部残留

▶2022年度関東学生テニストーナメント大会〈個人戦〉（4月～5月 外部テニスコート）
女子：市東 麻衣子（シード）
1次予選 セミファイナル 対 順天堂大学 6-1 勝
ファイナル 対 専 修 大 学 3-6 敗

▶2022年度関東学生テニス対抗戦〈団体戦〉（8月～9月 各大学テニスコート）
男子7部リーグ 予選16ブロック 1ブロックあたり3～4大学構成
1回戦 対 大東文化大学（シード校）1-8 敗
2回戦 対 東京工科大学　9-0 勝

▶2022年度千葉県学生テニス大会<個人戦>（10月 各大学テニスコート）
【シングルス】予選準優勝 大川 透也
本戦出場 堂園 玲雄、大川 透也、長谷川 貴一、赤木 俊介
【ダブルス】本戦ベスト8 大川･木口組

バスケットボール部

▶第71回関東大学バスケットボール選手権大会（4月23日 千葉工業大学習志野キャンパス）
トーナメント:1回戦敗退　対桐蔭横浜大学

▶第98回関東大学バスケットボールリーグ戦（9月～10月 千葉工業大学、千葉商科大学）
0勝4敗

敬愛大学体育会活動報告会開催

2022年 12月 16日（金）敬愛大学活動報告会が開催されました。

佐々木学生部長、開会挨拶のもと各部代表者による活動報告がありました。

長引くコロナ感染症の影響から、今年の活動も制約のある厳しいものとなりましたが、女子バレー部においては、秋季2部リーグ優勝という素晴らしい結果を残しました。惜しくも1部リーグ昇格は逃してしまったものの「あと一歩！」来年こそはという意気込みの報告となりました。

1部リーグで活躍している野球部。秋季リーグは5位という成績で終わったが来年も1部リーグでの対戦にリベンジを誓い優勝目指して頑張っていってほしい。そして、少林寺拳法部・硬式テニス部・バスケットボール部の代表者からは来年度の目標や活動内容などの報告がありました。

また冒頭、佐々木学生部長が挨拶の中で学生スポーツの応援について話されました。応援は、選手たちに大きな力を与えてくれます。学生・教職員が応援に行きたい、行けるという環境を整えることが今後の課題の一つとして考えていきたいと思います。

どうぞ、応援よろしくお願いいたします。

会長あいさつ

新たなステージへの挑戦

体育会会長
中山 幸夫
（学長）

コロナ禍による様々な制約、困難と直面しながらも、体育会所属の各部は逞しく活動を展開しています。

今年度はバレーボール部（女子）が関東大学女子2部春季リーグ戦において準優勝（二期連続）、秋季リーグ戦では初優勝という快挙を達成しました。福田均志監督を指導者として招聘して4年、バレーボール部はリーグ戦で安定した成績を挙げています。今年度の入替戦では春季、秋季ともに対戦相手の日本大学に惜敗。1部昇格は来年度以降に持ち越しとなりましたが、悔しさと反省の体験から学んだことを糧に、次の挑戦に向けて準備を整えてくれるものと思います。バレーボール部が1部昇格を成し遂げ、新たなステージで飛躍することを期待しています。

野球部は昨年十一月より藤川正博氏を監督として迎え、心機一転して新たなスタートを切りました。新監督の藤川氏は君津商業、帝京大学、社会人野球の名門、日産自動車のエースとして活躍し、都市対抗野球大会では全国優勝を経験しています。大学時代は首都大学リーグでベストナイン（投手）を受賞、日米大学野球選手権大会にも出場し、指導者としての経験も豊富です。新監督の就任については大学ホームページで取り上げるとともに、全国の主要メディアにプレスリリースし、各社でニュースとして配信されました。

本学野球部は一九五二（昭和27）年に結成された「千葉県大学野球連盟」に加盟して半世紀近くになりますが、2部での優勝経験は少なからずあるものの（13回）、1部での優勝はなく現在に至っています。新体制への移行に際しては藤川新監督に新入生のスカウトを依頼し、コーチ人事も刷新しました。藤川新監督の指導のもと、野球部の部員が真摯な姿勢で野球と学業に取り組むことで、大願成就の日は近づくものと思います。

なお、体育会では昨年秋に待望の公式サイトをオープンしました。4つの部活（野球部･バレーボール部･少林寺拳法部･硬式テニス部）について最新情報を発信していますので、是非ご覧ください。

interview 1部リーグ優勝し、神宮で日本一を

野球部 Baseball

野球部 監督
藤川 正博

Profile
1958年8月21日生（64歳）
福岡県出身／ポジション 投手
帝京大学のエースとして首都大学リーグで活躍し春季リーグ戦でベストナイン（投手）受賞。世界アマチュア野球選手権大会にも日本代表選手として出場。引退後は日産自動車硬式野球部コーチを経て帝京大学、帝京平成大学等で野球部監督を務める。

より強いチームとなることを目指して敬愛大学野球部の新監督に就任した藤川正博氏。「胆大心小」をモットーとするチーム作りについて伺った。

きめ細やかな練習と大胆な野球の実践で敬大野球部を1部リーグ常勝軍団へ

2022年4月からスカウトとして敬愛大学野球に関わり、11月に監督に就任した藤川正博新監督。2023年4月からは、満を辞していよいよ春のリーグ戦がスタートする。

「昨年の秋季リーグが終わった段階から新たなチーム作りに着手してきました。いい意味で、チームを180度変えていくつもりです。敬愛大学野球部には大学の尽力もあって、日本全国のいわゆる強豪と呼ばれる高校から実力のある選手が集まっています。ところが、残念ながらそれぞれの選手の100%の力が出し切れていないというのが正直な印象です。私の最初の仕事はチームをリセットすること。相当なエネルギーが必要ですが、ここからが敬大野球部のリスタートです」と語る藤川監督。まず注力したことは、勝てる雰囲気を持っているチームへと変貌させること。

「長年監督をやってきて、さまざまなチームを見てきたからこそ分かるのですが、強いチームには〝強いチームの雰囲気〟があります。具体的にはどのようなことかといえば、挨拶の仕方、攻守交代でベンチから出てくるときの姿、監督の話を聞く姿勢、円陣を組んだ時の様子、ベースランニングの走り方といったものです。勝てるチームは、監督やキャプテンが話をしているときは力チッと固まって話している人に視線も気持ちも集中する、円陣を組んでいるときによそ見をする者がいない、攻守交代やベースランニングは全力疾走です。そんな小さなこと？と思われるかもしれませんが、それができるかできないかは、野球に対する意識が高いのか低いかの差です。プレーの前の心構えの段階で勝負は決まります。選手には納得して実践してもらえるよう、そのことをことあるごとに丁寧に話しています」

監督1年目の目標を伺うと、「野球人であれば、目標は常に優勝しかありません」ときっぱり。

「敬愛大学は1部リーグの常連で、近年では2021年度春季リーグで準優勝を果たしました。ところが優勝はまだありません。1部リーグの他の大学はほとんどが一度は優勝した経験があります。だからこそ選手に勝つ喜びと勝つ道のりを知ってほしいのです。選手には常々、目標は1部リーグ優勝、さらには神宮に行って大学野球日本一になることだと話しています。敬愛大学と縁があって監督に就任したからには、選手に生涯の思い出になるような感動を味わわせてあげたいというのが私の切なる願いです」

きちんとした挨拶ができること、人の話に耳を傾けられることは、将来プロ野球に入団したとしても、あるいは企業に就職したとしても必ず役に立つ。だからこそ時には監督室への入室の仕方や、椅子の座り方まで指導することもあると言う。

「ずいぶんと細かいことを指導してくるなと驚いている選手もいるでしょうね（笑）。それでもいいのです。私のモットーは『胆大心小』。練習のときはきめ細やかに、だけれど勝負のときは度胸を据えて思い切りやる。度胸を据えなければ、不安がよぎるし、マイナスなことばかりを考えてしまいますからね。結果の責任は全て指揮官である監督にあるのだからプレーのときは何も心配せず思い切り行けと背中を押しています」と豪快に笑う藤川監督のもとで新たなスタートラインに立った敬大野球部。悲願の1部リーグ優勝に向けて大きく動き出した。

気持ちを一つにして優勝を目指す！

野球部 投手
経済学部 経営学科 1年
千葉 倖生

藤川新監督のもと再スタートを切った敬愛大学野球部。期待の投手・千葉倖生選手に今シーズンへの意気込みや敬愛大学野球の可能性について聞いた。

副投手リーダーとして、チームに貢献することが自分の成長にもつながる

昨年度千葉県大学野球1部リーグで、春季6位、秋季5位と悔しさが残る結果となった野球部。

「藤川監督が僕たちにいつも話すのは『1部リーグで優勝して神宮へ行く、そして日本一になる』。目指がリアルになったことで練習に対する意識が変わりました。1年生の時から副投手リーダーを任されていることもありますし、下級生が入ってきたこともあって、チームをもっといい方向に変えていきたいという強い思いが芽生えました。野球をやる以上は下位の順位に甘んじるのは嫌ですからね。チームに貢献することが、自分の成長にも繋がると思うので、今年は自分たち2年生がチームを引っ張るつもりで野球に取り組みます」と語る千葉投手は、高校野球の名門、仙台育英学園高等学校の出身。仙台育英から敬大野球部への入部は千葉投手が初となる。

「仙台育英時代は、最後の学年でひざの半月板を損傷して思うような結果が残せませんでした。もっと上のレベルで野球を続けたいと思っていた時期に、練習試合を仙台に見に来てくださった敬大野球部の関係者の方に声をかけていただいたときはチャンスだと嬉しく思いました。調べると敬大野球部は、千葉県の大学野球1部リーグ常連で、しかも発展する可能性のあるチームだと分かり入部を決めました。実際に入部してみると、いわゆる強豪といわれているところから来ている選手がたくさんいて、いい刺激を受けました。トレーニング方法についての情報交換ができたことも自分にとって大きかったですね」

2022年度春季リーグではワンポイントで登板。大学リーグ初登板で緊張したこともありフォアボールを与えてしまった。しかし、秋季リーグでは同じくワンポイントの登板で見事に打者を抑え実戦での結果を残すことができた。

「抑えた打者は、育成選手でプロ球団に行った選手です。プロ野球選手になった人を抑えられたという事実は僕の中で確かな自信になりました」

専攻は経済学部で、大学での授業も野球に好影響を与えているという。

「グループディスカッションや周りの人と議論を重ねながら結論を導き出したりする授業が結構あって、この1年でコミュニケーション能力が養えたと思います。副投手リーダーとして投手陣に指示を出すとき、新入部員が入ってきて話をするとき、コミュニケーションについて話し合いをするとき、トレーニングに可欠で、授業が役立っていると感じます」

子どもの頃から心がけているのは笑顔だと千葉投手。インタビューの際の爽やかな笑顔も印象的だ。

「野球だって勉強だってうまくいくことばかりではありません。チームがうまく機能しないときだってあります。そんなときにいつまでも落ち込んで暗い表情でいれば、周りだって沈んだまま。笑顔でいれば、周りも巻き込んで、明るい雰囲気が作れます。チームを明るいムードにして、モチベーションの底上げを図る、それも僕の役割です」と語る千葉投手と敬愛大学野球部にますます注目だ。

硬式テニス部 主将
経済学部 経営学科 2年
木口 快斗

コロナ禍を経たからこそ実感している学校の部活として大会に出られる喜び

昨シーズンは、千葉県学生テニス対抗戦〈団体戦〉、関東学生テニス対抗戦〈団体戦〉への出場を果たし、10月に行われた千葉県学生テニス大会〈個人戦〉ではダブルス 大川・木口組で本戦ベスト8の成績を残した木口快斗選手。今年から新たに主将となりチーム作りにも取り組んでいる。

「関東学生の団体戦は、あと一勝でチームの目標だった7部本選に出場することができたましたが、あと一勝というところで負けてしまいました。千葉県大会も1部入れ替え戦まで行ったのに、そこで負けてしまって2部残留になりました。来年は何としてでも1部昇格できるように頑張ります。テニス部では部員全員で練習メニューを考えますが、みんなの意見を取りまとめるのは主将の役目です。確実に力がつけられるメニューを組み立てたいですね」と抱負を語る木口主将。テニス部のもう一つ課題は部員を増やすこと。

「テニスは人気スポーツですが、部活を敬遠してサークルに入る人も少なくありません。ただ大学の名前を背負って部として活動しているからこそ、千葉県や関東学生の大会に出場できます。大会があるから目標ができてテニスがうまくなる。そこが大学でテニスをしてよかったと感じているところです」

そう語る木口主将がスクールに入ってテニスを始めたのは小学校3年のとき。中学では部活が軟式であったため、スクールでテニスを続け、高校に入学してようやく硬式テニスに入部した。ところが、まもなくコロナ禍となり練習も試合もできなくなってしまった。

「中途半端で終わったことが悔しかった。だから大学でテニスを続けようと思いました。テニス部が廃部になる大学も数なくないのですが、敬愛大学は部員数が少ないとはいえ、大会に出場できるだけの選手がいることも魅力でした。僕と同じようにコロナでやり残した思いを抱えている人は少なくないと思います。すでに敬愛大学生の人も、高校生の人にも、不完全燃焼の思いがあるならば、ぜひいっしょに部活でテニスをしましょうと伝えたいですね」

試合に勝つことが部員の一番のモチベーションになると語る木口主将、勝利に向かって着実な歩みを進めている。

少林寺拳法部
経済学部 経営学科 1年
近藤 龍騎

大学生に求められる演舞の動きを必死に習得とにかく今は少林寺拳法のために生きている

「高校時代の少林寺拳法の大会はスピード重視だったんです。ところが大学の大会は演舞のキレと美しさに重きが置かれていました。そこに対応できなかったのが成績が振るわなかった原因です」と悔しがる近藤龍騎選手。桜林高校時代は県大会ではトップ、関東大会でも好成績を残した。しかしながら、敬愛大学に入っての初年度となる2022年の大会では、全日本学生大会、関東学生大会、関東新人大会、千葉県学生大会に出場したものの思うような成績をあげることはできなかった。

「だから今、稽古で集中して取り組んでいるのは、演舞にキレと美しさを備えることです。スピードには自信があるので、それができたら大会で上位入賞を狙えると思います」と意気込みを語る近藤選手が少林寺拳法を始めたのは高校時代。5歳年上で、敬愛大学少林寺拳法部の主将を勤めたことがある兄の影響で少林寺拳法の世界に入った。

「兄がかっこよくて見えて、その姿に憧れました。練習は大変でしたが、やってみると楽しいことがたくさんありました。大きかったのは、大会に出場するようになると、全国のいろいろな地域の友だちができることです。武道って孤独なスポーツだと思われがちですが決してそんなことはありません。大学の部活でも大会が終わった後で、部員のみんなとご飯を食べに行ったりして親睦を深めています」

近藤選手の道着の黒帯には日糸で「生涯修行」の文字が刺繍されている。

「深い意味はなくて、素敵な言葉だと思ったから入れました。少林寺拳法を生涯続けるかどうかは考えたことがありません。ただ確実に言えるのは、今は少林寺拳法のために生きているということ。もちろん大学生ですから学業も疎かにはしていませんけどね（笑）」

少林寺拳法部では部員も絶賛募集中だ。全くの初心者でもOK、気軽に始められるのも少林寺拳法のいいところだと近藤選手は胸を張る。

「めんどうな上下関係などは一切ありません。敬愛大学生らしく、みんな陽気でノリがいいから誰でもすぐに打ち解けられるのも魅力です」と近藤選手。興味がある人はぜひ武道場に見学に行ってみてはいかがだろうか。